

一九、仏Ⅱ大天使の悟り——毎日の生活の中で心を浄化

(ページ 『悟りは毎日の生活の中に』 参照)

仏という人は、この世に出て来て、朝から晩まで四六時中、仏ではいられないんですよ。二十四時間のうち、話をする五時間なら五時間というものが、仏になれる訳です。

我々は五時間どころか、一分間も仏の境地にはなれないんですよ。

そして、この五時間の中で、仏の教えをみんなに話をする訳ですね。

それが終わったら、今度は普通の生活の中で、自分の心を浄化しようと一所懸命やっているんですよ。仏さんでさえ、それだけやっているんですよ。

お釈迦さんでもそうですね。お釈迦さんは悟られるまで三十六年掛かったんですね。自分の生活を通して、いろんな疑問を持って、城を飛び出して、そして座り込んだ。

六年間座り込んだけれど、さあ、さっぱり分からない。そして、やおら立って、普通の生活に戻った時に、人間というものの悟りを開いたんですね。

お釈迦さんは、禪を組んで悟りを開かれたんじゃないんですよ。

イエス様は大工さんですね。モーゼは奴隷でしたね。やはり其々に、そういう自分の生活の中、苦しみを通して、みんな一所懸命やって、悟られたんですね。

我々は、そういう人の話を聴いて、「こういう人がいたんだよ」、「こうやったんだよ」、「あゝそうか、それは尤もだ」と、そのようにならなくてはいけないです。

しかし、「尤もだ」と言いながら、一旦その場から外に出たら、やりたい事をやってしまう。——これじゃあ、仏さんが何の為に出て来られたのか分からないですね。

ですから当然、今の世の中がおかしくなっている訳です。そのおかしなのが、実は人間なんです。おかしいものもあって良い訳ですよ。

ただ、このおかしい中で自分を通して、いろんなものを見て、それをどのようにするかということが大事なんです。

私達は今現在、幸せになる道は、拝むことでも、お経を上げる事でもない。やはり、毎日の生活行為の中にあるんですよ。

それは、どういふことでしょうか？ ——お釈迦さんやイエス様の教えの中に全部

ありますよ。

イエス様は、みんな集まって、「アーメンとやりなさい」とか仰っていますよ。「人間というものは、みんな其々に苦しみがある。」

私は、神が仰った事を、あなた達に話をしていくんですよ。

私の言った事を実行するんですよ。実行しない人は、私の友達ではありませんよ」——イエス様は、そう仰っていたんですよ。

ところが、自分が還る時間（決められた時間）があまりにも短か過ぎるので、これはこのままでは、自分の話が、みんな理解出来ないから、いろんな現象を起こしている訳ですね。

身体が動かない人を動けるようにしてみたり、亡くなりそうな人を見たら、助けてあげたりしたんですね。しかしそれは、ちゃんと縁があつて、相手が出て来ている訳ですよ。別にどうという事じゃないんですね。

まあ、イエス様がそういう力があるから、みんなびっくりしゃっくりしたんですね。イエス様は、

「これは、あの世があつて、あの世からの力でこういう事が出来るんですよ。

私の言う事をちゃんと守つて、毎日生活をすれば、そのように苦しまないで済むんですよ」

と話されたんですよ。それが、伝わり伝わって、聖書という分厚い本になり、読んでも、さっぱり分からないようになってしまった訳です。

それで、終いには、「讚美歌を歌えば良い」、「洗礼を受ければ良い」になってしまったんですね。これで、本当に救われるんでしょうか。

片や、「お経を上げればよい」、「お寺に行けば救われる」と言いますが、例え、お経を上げて、お寺に駆け込んでも救われませんよ。

やはり、自分だということですね。要は、自分を大事にしてくださいということなんです。自分を大事に出来なければ、人をも大事に出来ませんし、人とも手を繋いでいくことが出来ませんよ。

そして、人間ばかりではない、万生万物（万象万物の意）全てのものがお互いに協力・協調して、そして世の中を過ぎていかなければいけないんですね。

一九八二年一月